

地域リハビリテーション研修会 アンケート結果から見える 地域の現状について

北部保健福祉事務所

成人・高齢班 武者 恵

地域リハビリテーション 支援体制整備事業

実施主体：保健福祉事務所

(地域リハビリテーション広域支援センター)

事業内容

- 地域リハビリテーション検討会
- 圏域体制整備事業
- 地域リハビリテーション連携システム構築事業
- 地域包括ケア体制のサポート事業
- 従事者基礎研修事業

従事者基礎研修事業 (以下、「地域リハ研修会」)

- 在宅で暮らす高齢者や障害者の日常生活活動(ADL)の維持・自立を図るため
 - 市町村職員，介護保険施設等に勤務する，ケアマネジャー(以下「CM」)や介護スタッフを対象に
 - 対象者についての理解を促進し，適切な計画に基づいて，適切な支援ができるようになることを目指す
- 研修内容は、『地域の実状に合わせて』

大崎圏域の特徴

- 1市4町
- 総人口:約216,140人
- 高齢者人口:53,916人
- 高齢化率:24.9%
- 要介護・要支援認定者数:約8,900人
- 居宅サービス受給者数:7,584人
(出現率14.1%)
- 地域包括支援センター 8ヶ所

大崎圏域の介護保険サービス

- 居宅介護支援事業所

67カ所

- 【訪問系サービス】

- 訪問介護 42カ所

- 訪問入浴介護 14カ所

- 【医療系訪問サービス】

- 訪問看護 7カ所

- 訪問リハビリテーション

1カ所

- 【通所系サービス】

- 通所介護 63カ所

- 通所リハビリテーション

12カ所

- 【用具系サービス】

- 福祉用具販売 13カ所

- 福祉用具貸与 14カ所

平成21年1月末現在

当所・成人高齢班調べ0

地域リハ研修会の推移

平成12年～

地域リハについての啓発

対象者の支援
を行う上で
必要な
知識・技術
についての研修

平成18年度から

地域の
実状

支援スタッフは
『疾患』や『障害』についての
理解が進んでおらず
適切な支援に
結びついていない…？

『疾患や障害の理解と
その対応方法』に
焦点をあてた研修会を！！

平成18年度・19年度 地域リハ研修会

平成18年度

テーマ：脳血管系障害

全4回

摂食・嚥下障害

移動の福祉用具・装具

排泄ケア

障害像のまとめ

参加者：平均103名

参加職種：

50%→介護職，20%→CM

平成19年度

テーマ：整形疾患

全3回

膝痛・腰痛の病態

膝痛・腰痛の対応方法

住宅改修アセスメント

参加者：平均106名

参加職種：

40%→CM，30%→介護職

平成20年度地域リハ研修会 (テーマ・内容と参加者)

平成20年度

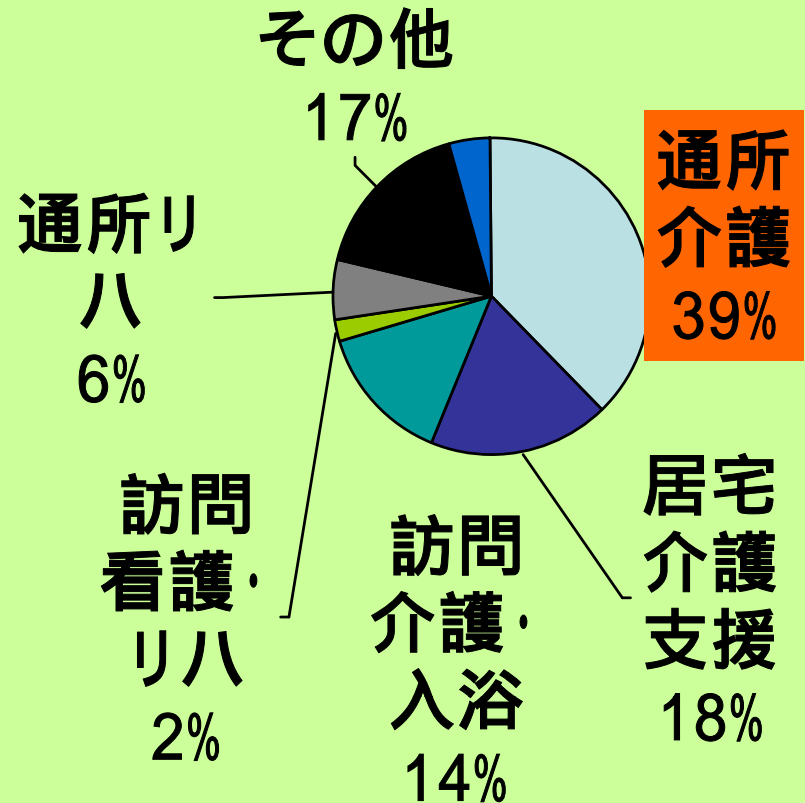
テーマ：高齢者に多く
認められる
疾患・症状

全2回

骨粗鬆症・骨折

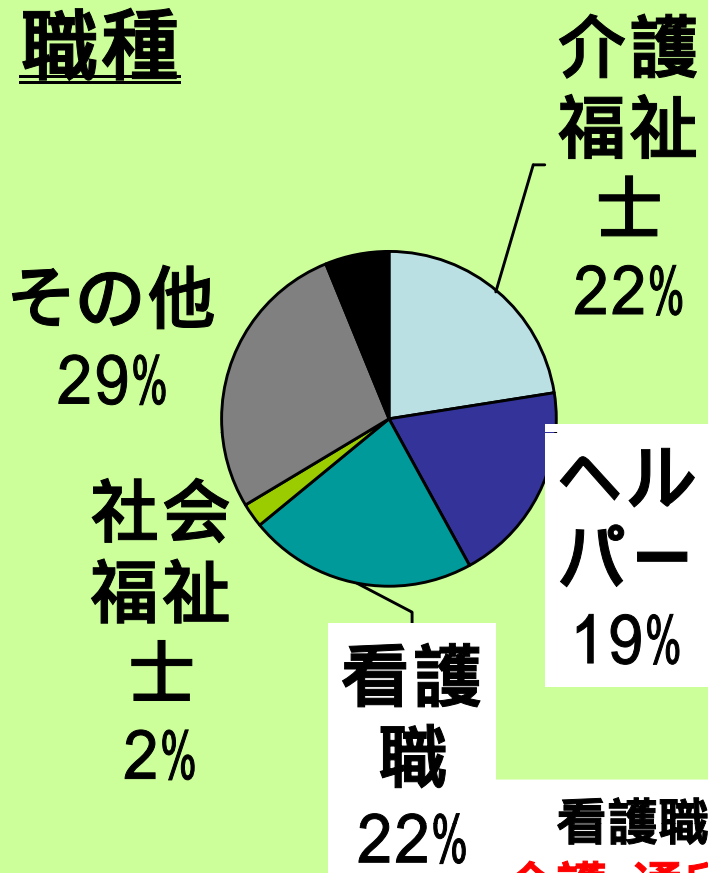
講師：整形外科医

担当業務

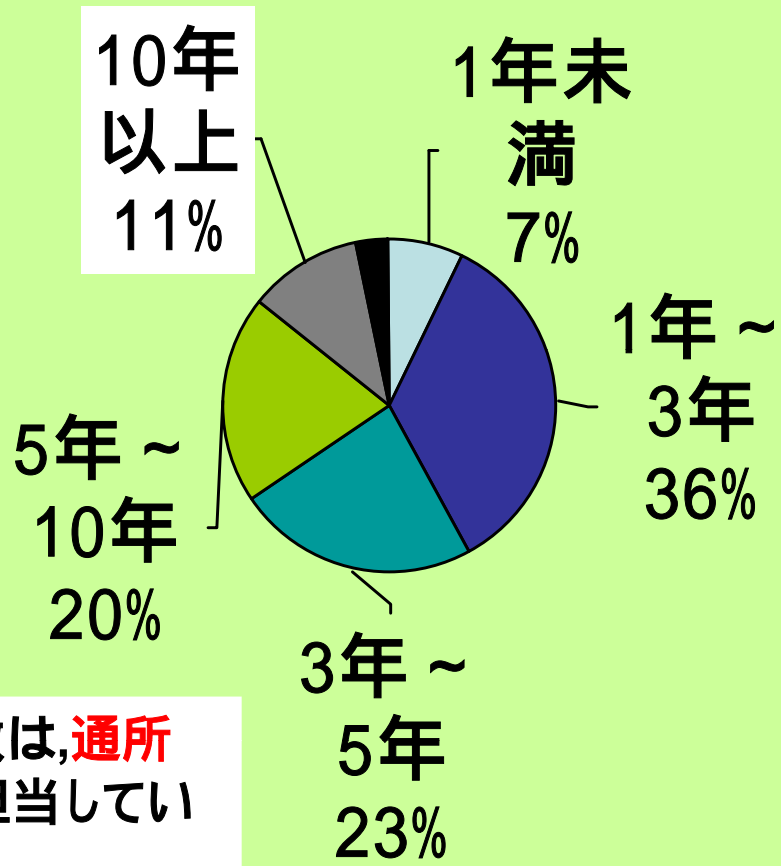


平成20年度研修会 の参加者 (職種と経験年数)

職種



経験年数



看護職の約半数は、**通所介護・通所リハ**を担当している。

平成20年度研修会 感想



骨の成り立ちなどが
理解できたことにより、
骨粗鬆症という
病気を理解でき、
今後の支援の留意点
がよくわかった。

予防につながる、
具体的な運動
(簡単体操)
の紹介がよかった。
実際にやってみたい。

平成20年度研修会

アンケート全体を通してわかったこと

テーマ：骨粗鬆症・骨折について

通所介護スタッフの参加
全体の40%でNo.1

看護職の約半数は
通所介護or通所リハ
担当の割合が高い。

訪問介護スタッフの45%
は10年以上の経験あり

テーマ設定

通所介護スタッフが必要としている知識と合っていた？
通所系サービスを担当する看護職が求められる知識・技能だった？

研修の機会

訪問介護スタッフは、テーマ内容について勉強する機会がない(または極端に少ない)のでは？

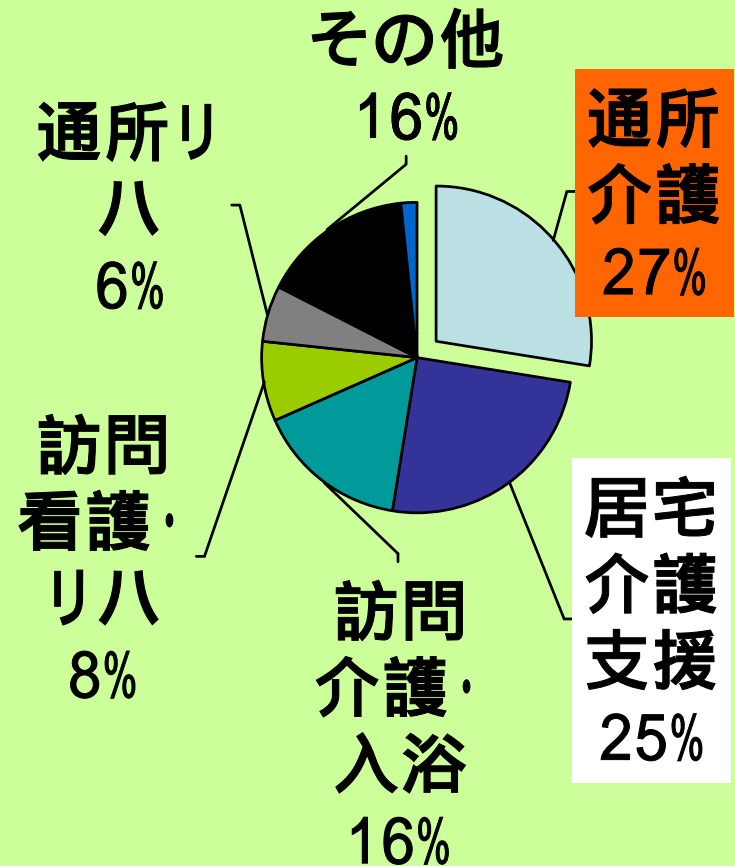
平成20年度研修会 (内容と参加者)

平成20年度

高齢者に多く
認められる症状と
リスク管理
講師:リハ専門医

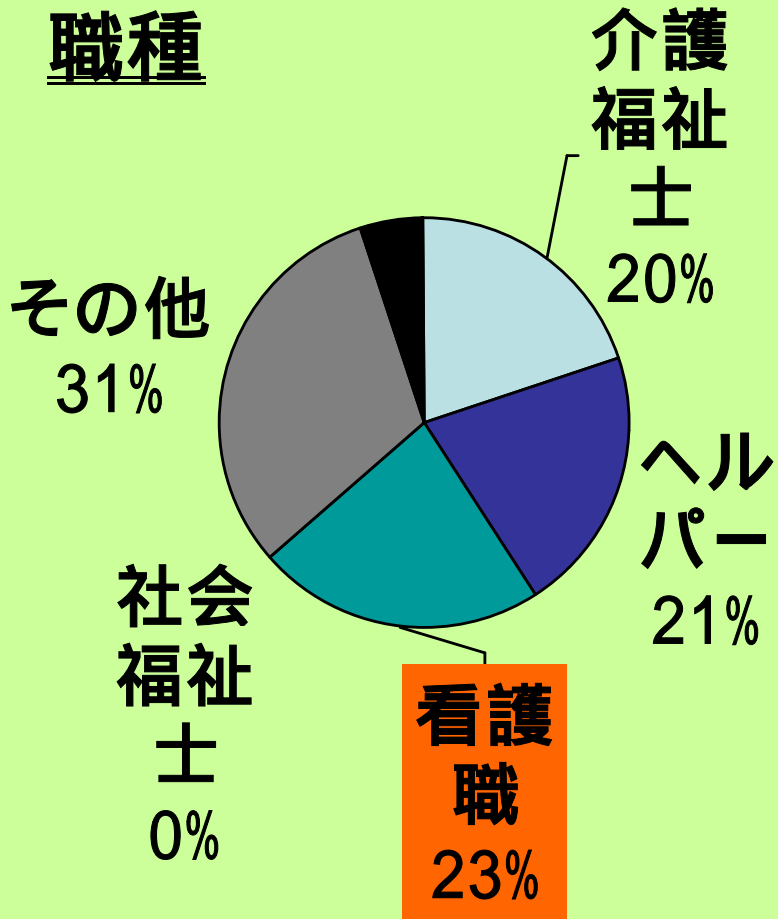
内容
浮腫, めまい, 動悸等

担当業務

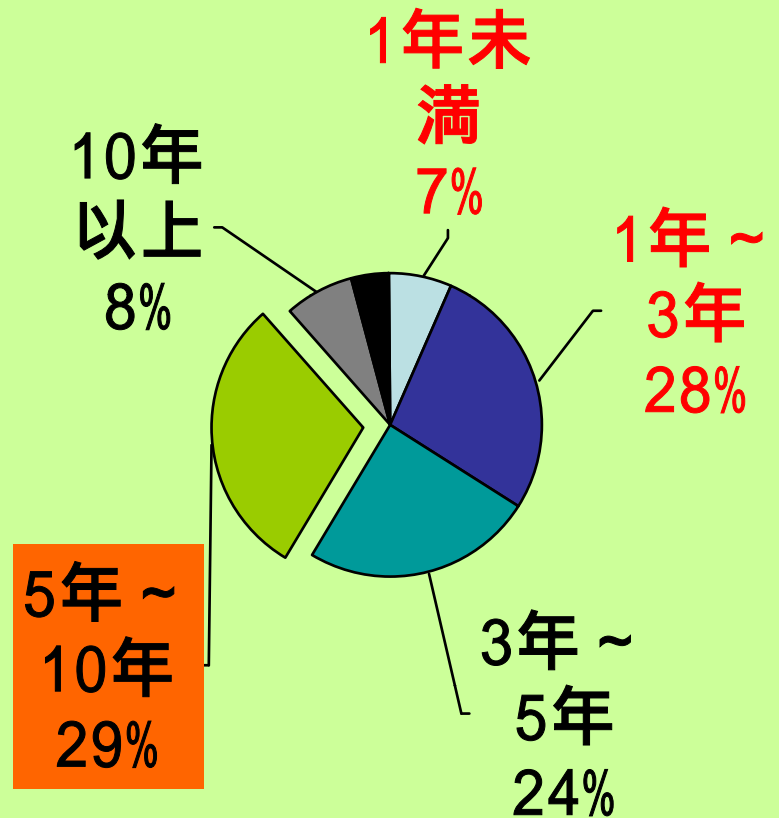


平成20年度研修会 の参加者 (職種と経験年数)

職種



経験年数



平成20年度研修会 感想



重大な症状の
見極め方
(緊急性の
判断の目安)
が参考になった。

利用者に
起こりえることが、
問題点として
上げられていた。
また資料に目を通したい。

平成20年度研修会 アンケート全体を通してわかったこと

テーマ：高齢者によく見られる症状
(浮腫・めまい・動悸・・・)とリスク管理について

(研修会と比較して)
通所介護の参加率が低く、
CMの参加率が高い。

通所介護を担当している
看護職の参加が多い。

参加者のCMのうち約60%は
5年以上の経験を持っている。

看護職の経験年数に偏りなし

テーマ設定

特にCMが必要としている知識
だった？
通所介護を担当する看護職に
求められる知識・技能だった？

研修の機会

CMにおいても、あまり勉強する
機会がない(または極端に
少ない)の内容だった？
看護職も普段の業務の振り返り
として研修を活用しているの
では？

平成20年度アンケート内容 (普段の勉強方法と効果的な勉強方法)

- 質問項目 : 普段の勉強方法

「普段どのような方法で、今回の研修のような内容について理解を深めていますか。」

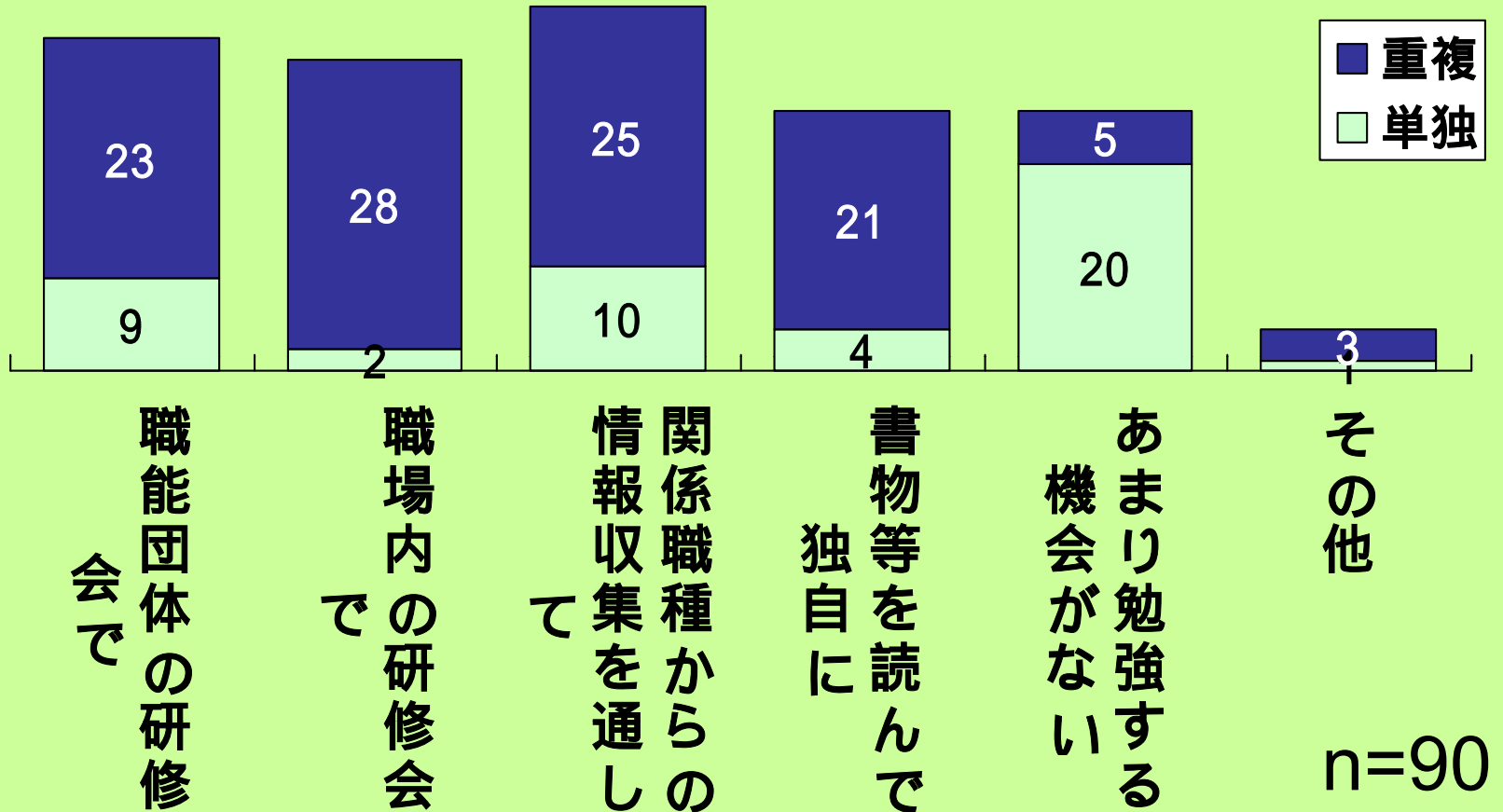
に対し、6つの選択肢で回答を得た。

- 質問項目 : 効果的な勉強方法

「『疾患の病態やその治療方法等』の理解を深めるためにはどのような方法が有効だと思いますか。」

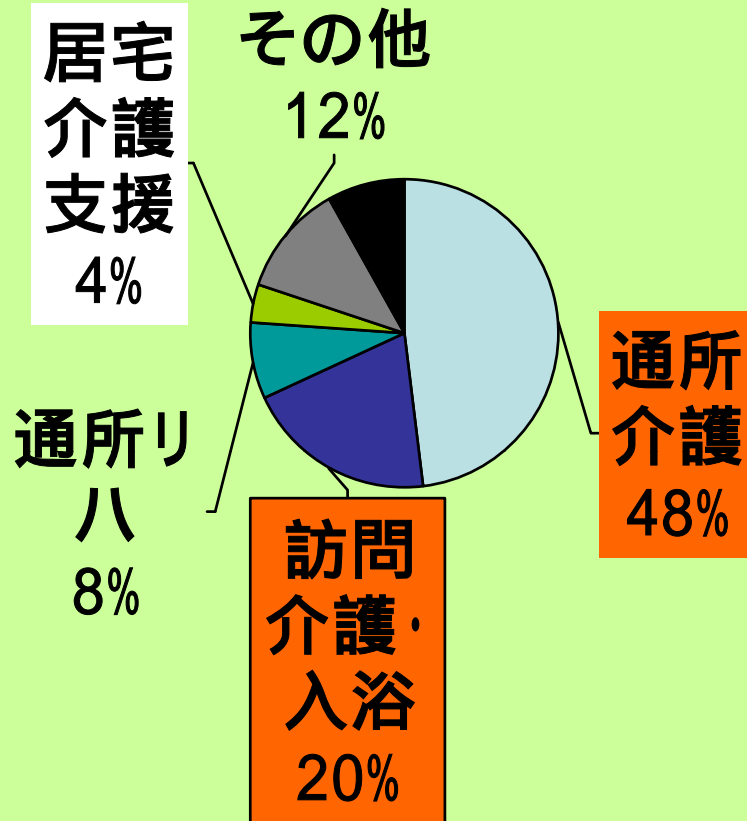
に対し、自由記述式で回答を得た。

研修会 普段の勉強方法

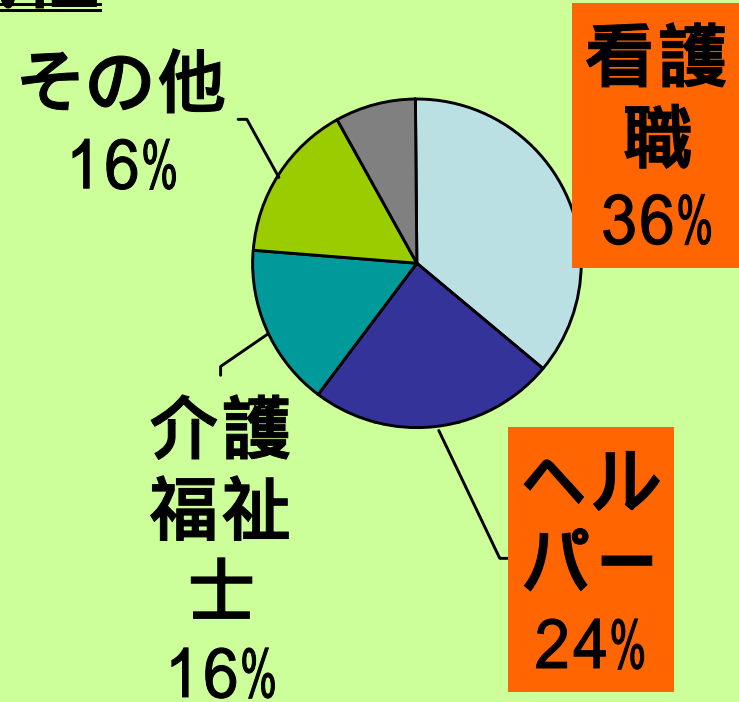


研修会 「あまり勉強する機会がない」 25名の参加者の特徴

担当業務

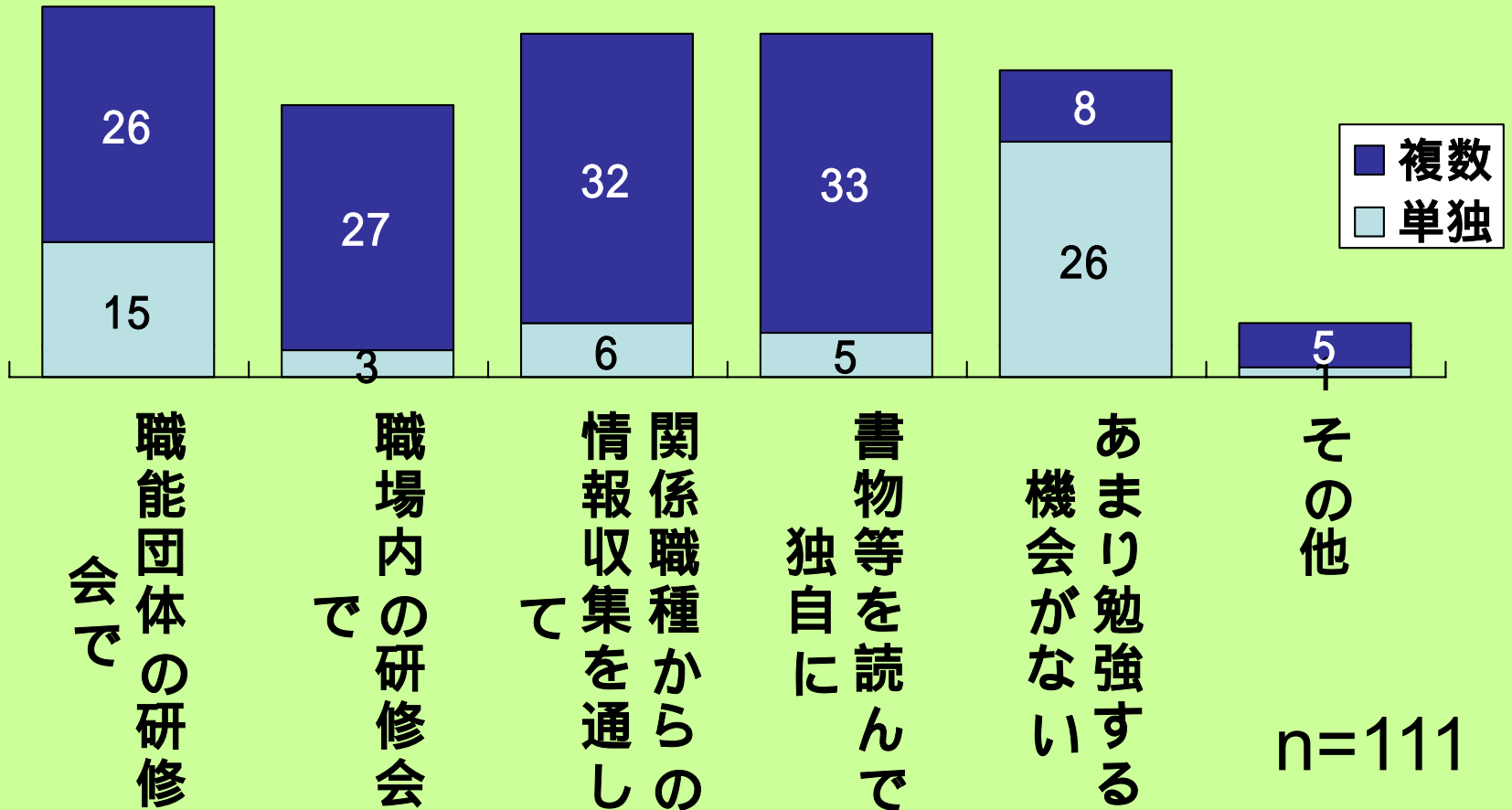


職種



通所介護や訪問介護・入浴に従事するスタッフや
看護職やヘルパーは、勉強する機会がない？！

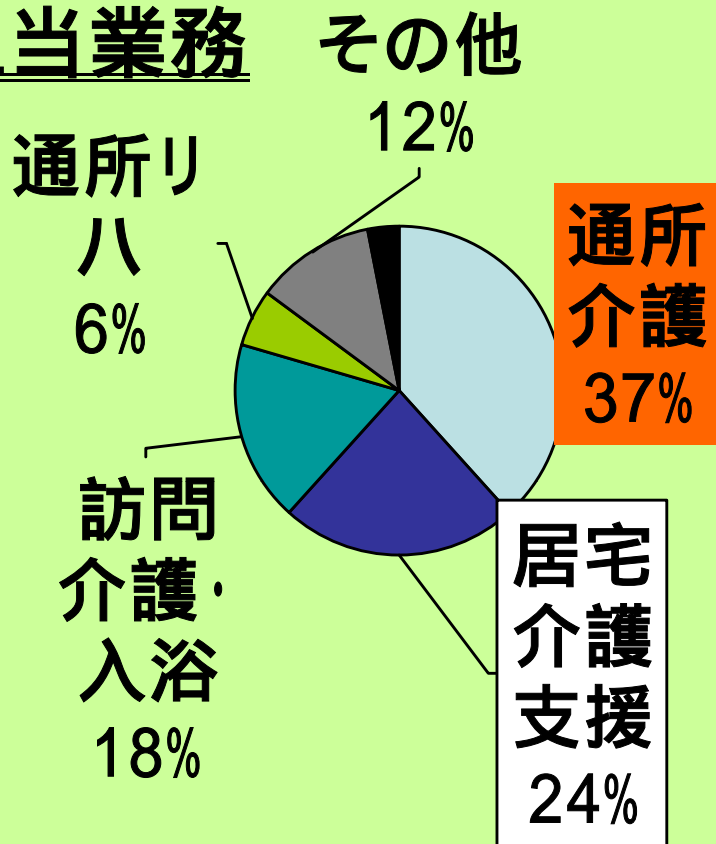
研修会 普段の勉強方法



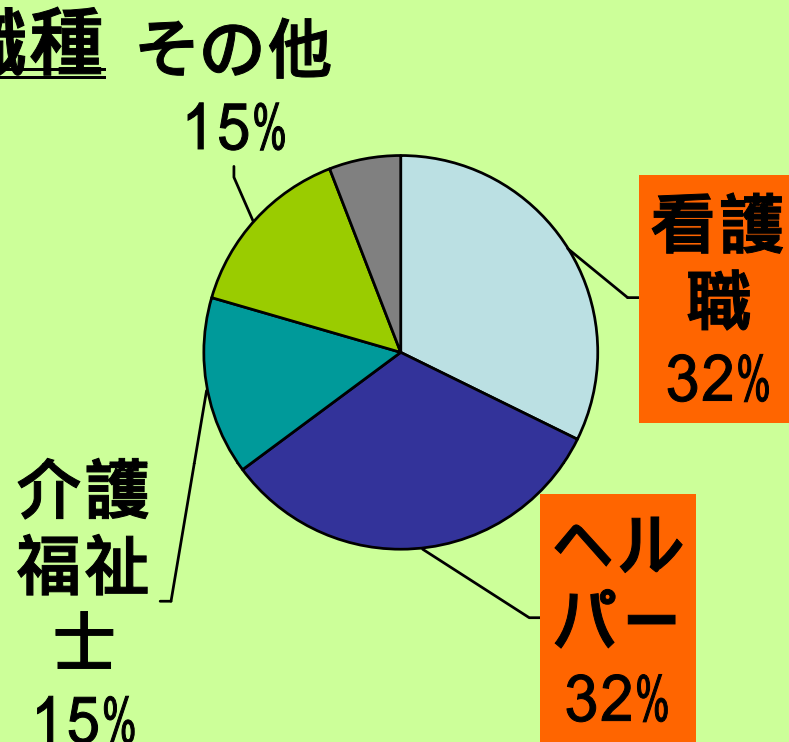
n=111

研修会 「あまり勉強する機会がない」 34名の参加者の特徴

担当業務



職種



通所介護に従事するスタッフや看護職やヘルパーは、勉強する機会がない？！

『疾患の病態や治療方法等』の理解を深めるのに有効な方法は？

大多数の意見

「定期的に研修を受けること」

「このような研修会の参加」

少数意見

「各職場内で研修を行うこと」

「資料や書籍で繰り返し勉強すること」

「わかりやすいパンフレットや広報等があればよい」

「医療機関と連携する機会を増やす」

「自分の担当者の病名や状態から学ぶことが一番の近道」

アンケート結果から見える 研修に関する地域の現状

『疾患』や『障害』
についての知識を
専門的な内容
と認識している

一方で

業務の中で
『疾患』や『障害』
についての知識を
求められている

「サービスの種
類」や
「担当する業務」
により
必要な知識・技術は
違う…？

専門的な知識
習得が
必要と
感じている

勉強する
機会がない

定期的に
繰り返し
勉強できる場が
必要だと
感じている

今後必要と思われること

サービス別・担当(役割)別
対象者のケアに必要な知識・技術
の整理と研修体制の整備

(例)
「通所介護」
と「通所リハ」
のスタッフに
必要な知識・
技術は違
う…?

地域リハ研修会だけでは限界がある…?

各職能団体等への研修内容について働きかけ…?

各サービスに従事するスタッフ毎の集まりの設定…?

まとめ

- 北部保健福祉事務所で行っている地域リハ研修会の実施状況について報告した。
- 研修会終了後アンケート結果から、参加者は、『疾患』や『障害』の病態やその治療方法の知識を、業務上求められているが、あまり勉強する機会がないことがわかった。
- 介護保険における、サービス別や担当役割別に、必要な知識・技術を整理し、研修体制を整備することが必要と思われる。